



# 野田小だより

学校教育目標

活力にあふれた学校

- がんばる子
- やさしい子
- 学びつづける子



## 珍しい木々たち

平成30年5月1日

校長 小林 達哉

学校では、正門から階段下にかけて、パンジー、ビオラ、キンセンカが、給食室前には「ナンジャモンジャ」の花が見事に咲き誇っています。「ナンジャモンジャ」とは、正式にはモクセイ科の「ヒトツバタゴ」と言うそうです。では、なぜ「ナンジャモンジャ」と言われるようになったかと言うと、①見慣れない物だからナンジャモンジャと言う愛称を付けた②神事等で使われていたため名前を呼ぶのがはばかれていたため③「何の木だ？」と呼ばれているうちにこの名前になった④水戸黄門が木の名前を聞かれて分からずにとっさに答えたため、と4つの説があるそうです。そして、愛知県では絶滅危惧種1類に分類されているそうです。

そう言えば、野田小には、この他にも普段見かけない珍しい木がいくつもあります。

フトモモ科の熱帯果樹の「フェイジョア」。果実はパイナップルとバナナの間のような芳香があり、生食またはジャムやゼリーなどの加工食品、果実酒などに利用されるそうです。

ミズキ科の「サンシュユ」。果肉を生薬にしたり、枝を温めた牛乳に入れ保温して一晩置きヨーグルトにしたりするそうです。

同じくミズキ科の「ダビディア」。葉は緑色なのですが、花は白く葉と同じような形をしており、まるでハンカチが枝に引っかかっているようなので別名「ハンカチの木」と呼ばれています。今、給食室前で可憐に咲いています。

他にもありますが、これらの木々は、新校舎ができた時や卒業記念樹として、地域の方の計らいで植樹していただいたものと聞いています。植木屋さんや造園業の方が多いこの野田地区ならではのことだと思います。自分たちが世話になった、また子どもが世話になっている野田小学校への思いがぎっしりと詰まっている木々たち。子どもたちもこれらの木々のように、それぞれの個性を持ちながら大きくたくましく成長してほしいなと改めて思いました。

また、毎年の特A主催の環境整備では、本職の皆さんや保護者の皆さんに樹木剪定や草刈りをしていただいたり、年3回植栽活動をしていただいたりしているのも野田小の良き伝統の一つと言えるでしょう。

地域や保護者の皆様に愛着をもって支えていただいているこの野田小の伝統を、今後も引き継ぎ、さらに発展させていくために、教職員一同、全力で取り組んでまいりますので、今後どうぞよろしく願いいたします。